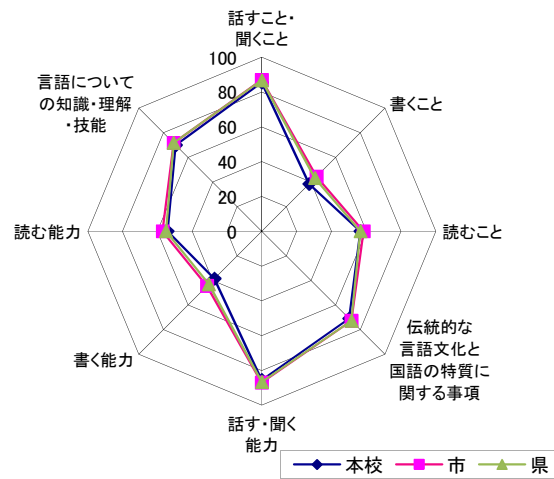


宇都宮市立宝木小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	85.5	87.0	86.7
	書くこと	38.5	44.5	43.1
	読むこと	56.6	58.5	56.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.0	72.8	72.8
観点	話す・聞く能力	85.5	87.0	86.7
	書く能力	38.5	44.5	43.1
	読む能力	54.2	57.0	55.1
	言語についての知識・理解・技能	70.0	71.7	71.7



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「話の中心に気を付けてきくことができるか」を問う問題は正答率が88.5%で、県平均よりも0.3ポイント上回っている。 ●「互いの考えの共通点や相違点を整理して聞くことができるか」を問う問題は正答率が79.4%で、県平均よりも2.4ポイント下回っている。	・普段の授業や生活の場で、聞くことの大切さを意識しながら話を聞く指導を続けていきたい。 ・話の聞き方として、大切なポイントを押さえながら聞く練習を行うようにしていきたい。
書くこと	○「報告書の構成を理解することができるか」を問う問題は、県平均の60.0%と同等の60.3%の正答率を示している。 ●「書くこうとすることの中心を明確にして記述することができるか」を問う問題は正答率が35.9%と低く、県平均よりも6.5ポイント下回っている。 ●「お礼の手紙を適切な順序と言葉遣いに書き直すことができるか」を問う問題は正答率が19.8%とかなり低く、県平均よりも5.4ポイント下回っている。	・報告書の書き方の基本について、「何を」「どうする」がよく理解されているので、今後も学習のまとめに生かしていきたい。 ・書きたいことは何かを常に意識させたり、構想メモを作成させたりすることで、書くこうとすることの中心を明らかにさせていきたい。 ・いろいろな場面で招待状や案内文を書かせていく中で、手紙の書き方を理解させていきたい。
読むこと	○「目的や必要に応じて、文章の内容を読むことができるか」や「叙述を基に登場人物の気持ちを想像して読むことができるか」を問う問題の正答率は、県平均よりも1.8%から2.6%上回っている。 ●「叙述を基に場面の移り変わりを読むことができるか」を問う問題の正答率は33.6%と低く、県平均よりも6.3ポイント下回っている。	・文章の前後関係をとらえながら内容を読み取ることができているので、中心となる言葉を探して読み取れるよう、指導していきたい。 ・場面の移り変わりを示す言葉を見つけることが不得手なので、必要となる語句の見つけ出しを指導していきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「日常使われている簡単な単語のローマ字による書き方を理解しているか」を問う問題の正答率は69.5%で、県平均を7.6ポイント上回っている。 ●「主語と述語について理解しているか」や「漢字のへんとつくりなどの構成について理解しているか」を問う問題の正答率は、それぞれ48.1%、45.8%で、県平均よりもそれぞれ15.5ポイント、6.7ポイント下回っている。	・これからも、日常生活の中で表示されているローマ字を適宜取り上げて、読み方を指導していきたい。 ・1分間スピーチなどを通して、話し言葉の「主語」「述語」を大切にし、内容の伝わる文章づくりを指導していきたい。